

かわさき協働通信



協働・連携による暮らしやすい地域社会を目指して 川崎市総合企画局自治推進部



第2回川崎市協働・連携のあり方検討委員会

市民活動の主体や手法が多様化する中、これからの協働・連携をどう捉えるべきか？

第2回川崎市協働・連携のあり方検討委員会
が平成27年1月26日、高津区役所会議室で開
催され、今後委員会で検討すべき論点や、そ
の進め方について審議しました。

地域課題の解決に関わる活動の主体や手法
が多様化する中での協働・連携をどう捉える
べきか、川崎市での現状を踏まえた審議をす
るため、活発な意見交換を行いました。



第2回委員会の様子

委員会の論点（現在の整理状況）

第3回委員会（3/20）で審議予定

導入論点：協働・連携に関する概念の共有に向けて
企業・大学等との協働・連携の取組や協働型事業、
各区の提案事業などの事例から、協働・連携に関
する現況や課題の共有を図ります

論点① 活動手法の多様化

活動手法の多様化により協働・連携の裾野が拡大
している状況を踏まえ、今後の施策や環境整備な
どの進むべき方向性について検討します



第4回委員会以降の想定論点

協働・連携に向けた環境整備

（人材、資金、場、中間支援、情報）



行政の役割、

協働・連携の意義・定義



会議は傍聴可能です。詳細は裏面をご覧ください。

平成27年度にかけて、残り7回の会議で左
記の論点について調査審議を行っていきます。

各会議においては、事務局から提供される
市内の協働・連携に関する具体的事例、関連
施策、統計データ等の資料に併せて、各委員
が活動を通じて感じている課題などを話題に
しながら議論を進めます。

（参考）大都市比較から見た川崎市の現状

審議のための基礎情報として、市を取り巻く社会
状況についての統計データを確認しました。

■ 高い人口密度と人口増加 ■

9,970人/1km²で東京都区部・大阪市に次ぐ3位
中原区（武蔵小杉駅周辺等）で人口が特に増加

■ 若い世代が多い ■

出生率1.01で1位
平均年齢41.5歳で1位
生産年齢人口割合70%で1位



■ 人口は2030年がピーク、高齢化が進む ■

将来推計人口は2030年152万人でピーク
その後、徐々に減少。一方、高齢化は着実に進行し、
2055年には36%が高齢者人口に

これからの協働・連携の捉え方、課題について 第2回委員会での意見の一部を紹介します。



企業や大学との連携は、なかなか全体像が見えてこないと感じている。現状の傾向やパターンを踏まえた上で検討したい。

80年代からの老舗の市民活動の方々が時代の変遷に伴い、活動しにくくなっている例を全国で散見している。うまくステップアップへ導く方法を考えたい。



利用規制の一部を取り払うことで、より活用できる施設や、対象枠を拡大することで全体がより活きる補助金や事業のしくみがありそうだ。



最近は団体の立上げ時にNPOではなく、一般社団法人を選択する例も増えているが、そうになると公的な支援や協働の枠に入らないことがある。



ソーシャルビジネスなどの新たな手法も広がりを見せており、法人類型等による一義的な整理が難しくなってきている。



協働事業なのか、委託事業なのか、位置づけが明確になっていない事業もある。



各区の提案型事業の実状や、その後どうなっているのか、市で調査をしているところなので、そのデータも提供していきたい。(事務局)



■第3回委員会■

【議題】導入論点：協働・連携に関する概念の共有に向けて
論点①活動手法の多様化

3月20日(金) 9時30分～

会場：にこぶら新地(アート&コミュニティスペース)

川崎市高津区二子2-6-47

東急田園都市線二子新地駅西口徒歩3分(線路高架下)

<http://dt08.org/nicopla/>

■傍聴ができます。ご興味のある方はぜひお越しください。

■詳しくは、以下の市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/42-3-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

●事務局●

川崎市総合企画局自治推進部

TEL 044-200-2168

FAX 044-200-3800

20ziti@city.kawasaki.jp



KAWASAKI CITY